



医の道を想う

message of supervisory doctors

福島県立医科大学で学び、
地域を広く照らしていくことの喜びを、
3人の指導医(スタッフ)と4人の研修医に
聞きました。

広い視野を持って知識を習得し、 医療人として人間形成を深めてほしい。

消化管外科 (器官制御外科学講座)
講師 中村 泉

器官制御外科の中には、消化管外科、肝胆膵・移植外科、甲状腺・内分泌外科、乳腺外科など幅広い分野が広がっています。研修においては自分の専門科だけではなく、他の分野の知識も習得して「患者さんの全体を診る」というスタンスで指導しています。たとえば、甲状腺健診で医師の手が足りないときは、消化器の医師がサポートできるといった診療体制をすぐに構築できるのは、私たちの強みだと感じています。チームワークを活かした医療で、地域に貢献していきたいですね。

医療は技術だけで語れるものではありません。器官制御外科の患者さんの場合、5年 10 年と長くお付き合いする方もいらっしゃいます。患者さんとふれあひなくして信頼関係はあり得ません。患者さんの気持ちを汲み取り、人間形成を深めてもらえたらと思います。



正しい初期対応と検査・処置を 自分で導き出せる医療人に。

小児科 (小児科学講座)
講師 陶山 和秀

子どもが風邪をひいた、目が赤くなった、足をケガした…小児科にはさまざまな症状の子どもがやってきます。夜間救急で最も多いのも小児科です。全身の症状に対処できることが求められるため、幅広く知識や技術を身に付けることができます。将来、小児科に進むことを考えていない方ほど選択科目で専攻してほしいと強く思っています。

研修医には大丈夫なのか危ないのかを診断する初期対応ができるように、専攻医には初期対応のあとにどういった検査・処置をするべきか自分で正しく導き出せるようになるための指導とフォローを行っています。小児科の場合は親御さんとの会話も大事になりますので、コミュニケーション能力も高めて欲しいと思います。



自主性を伸ばしながら、 後輩の育成にも尽力してほしい。

医療人育成・支援センター
臨床医学教育研修部門
部門長(准教授) 大谷 晃司

私は研修医や専攻医の全体的なカリキュラムや質の管理を行いながら、次世代の養成に取り組んでいます。研修医の中には、勉強の仕方や進むべき道に迷ってしまう研修医もいます。指導医である私たちは、そんな研修医の自主性を伸ばしてあげられる存在でありたいと思っています。そして、自身の向上を大事にしたうえで、後輩の育成にもあたってほしいのです。人に何かを教えることは、自らの勉強にもなりますから。医療人としての想いがつながっていけば、福島県立医科大学、さらに県全体の臨床の質の向上にも結びついていくはずです。今後は、福島県内で行っている震災後のケアに関する情報を県外にも発信し、サポーターを増やしていければと思っています。

